

大洗応援隊

～商店街の垣根を越えた町づくり～

ボランティア

地域交流

代表者：人文学部人文コミュニケーション学科2年 細萱 真希

連携先

髭釜商店街、曲がり松商店街、永町商店街、大貫商店街、大洗町役場、大洗町商工会、NPO法人大洗海の大学、まいわい市場、大洗町宿舍青年会、大洗町漁業研究会

顧問教員

伊藤 哲司（人文学部・教授）

参加者

小野寺 藍（教育学部4年）
柴田 裕輝（理学部4年）
上野嘉那子（人文学部3年）
沢村 浩平（理学部3年）
加藤 成美（人文学部2年）
武田 佑穂（人文学部2年）
畠田慎太郎（人文学部2年）
細萱 真希（人文学部2年）
森 彩織（教育学部2年）
弓削田淳平（人文学部2年）
小沼 里沙（理学部1年）
阪本 隼士（工学部1年）
星野 春奈（理学部1年）
安光駿太郎（工学部1年）

プロジェクトの概要

<プロジェクトの背景>

「大洗応援隊」とは、東日本大震災を受け、大洗町の復興支援を行うことを目的として2011年5月に創設された社会的ネットワークである。2012年9月からは髭釜商店街の

空き店舗を利用した「ほげほげカフェ」を運営している。大洗町での活動に関心を抱いて集まった学生や社会人によって構成されており、Facebookによって繋がっている。現在は茨城大学の学生が中心となって活動を行っている。

<プロジェクトの内容・目的>

○目的

髭釜商店街をはじめ大洗町の様々な団体と連携し、大洗町の賑わいの継続・更なる発展、防災を含む町づくりや地域住民と観光客のネットワーク形成など、多角的な視点から活動を行っていくこと。

○内容

今年度はカフェ運営、イベント開催、情報発信の3つに力を入れて活動した。その他にも商店街のイベント補助や、COC事業シンポジウムにおける我々の活動紹介などを行った。

<今年度の主な活動日程>

○4月

茨城大学新歓祭にて新入生にPR
大洗海の大学10周年記念式典に参加

○5月

新歓ツアー開催
大洗応援隊学生メンバーのHP開設

- 6月
 - オリジナルメニュー販売開始
 - ホッキ祭への参加
 - 茨城大学地域参画プロジェクト採択

- 7月
 - 茨城大学放送研究会の取材を受ける
 - スーパーボールすくいイベント開催
 - 茨城放送に出演

- 8月
 - 磯節コンサート開催
 - 八朔祭で「まなびの輪」(大洗町国際交流課)とコラボ

- 9月
 - 観光客との交流会開催
 - ジャズ&ウクレレコンサート開催

- 10月
 - 防災ゲームクロスロードイベント開催
 - 大洗町大学生議会に向けての準備開始

- 11月
 - 大洗公民館講座の会場になる
 - 参加型音楽会「ほげfes♪」開催
 - いばキラTVに出演
 - 大学の授業や図書館でのPR

- 12月
 - 「ほげほげカフェ冬日和祭」開催
 - 髭釜商店街抽選会の会場になる
 - 茨城大学COCキックオフシンポジウムでの活動紹介

プロジェクトの成果報告

<今年度の成果>

- カフェ運営
 - 大洗町にある髭釜商店街の空き店舗を活用

した「ほげほげカフェ」を隔週土曜日と大洗のイベント時に合わせて運営した。季節に合わせて新メニューを考案したり、来店者に旅の足跡を残してもらうために掲示板を設置したりとメンバーの気づきにより様々な工夫がなされ、進化するカフェと評価されるようになった。観光客の憩いの場としてはもちろん、観光客同士の集いの場、観光客と地域住民の交流の場としても機能し始めている。



ほげほげカフェの様子

○イベント開催

昨年度に引き続き、今年度も大洗の魅力を発信できるようなイベントや皆が楽しめるようなイベントをカフェにて開催した。昨年度はマップの作成に時間をとられてしまい、イベントができたのは年に数回だった。その反省を踏まえて今年度はイベント開催に力を入れたところ、一か月に一度のペースでイベントを開催できた。地域住民に大洗発祥の日本三大民謡「磯節」を披露してもらったり、震災当時の大洗の様子を地域住民から聞き、災害時の行動をシュミレーションする「防災ゲームクロスロード」を行ったりした。その他にも来店者からの提案で参加型の音楽会を開催したこともあった。



磯節コンサートの様子



防災ゲームクロスロードの様子

○情報発信

大洗応援隊のブログやHP、Twitterを開設し、大洗のイベントや商店街の情報を発信した。茨城放送のラジオ、いばキラTVにも出演し、大洗の情報の発信と大洗応援隊の活動の広報ができた。また、カフェ内に大洗のイベント一覧や旬の魚についてポスター展示したほか、ガイドブックやパンフレットの設置も行った。昨年度作成した商店街マップはカフェに常備し、イベント時には通行人にも配布した。



カフェ内に常備してある広報誌など

<外部からの評価>

カフェ運営については、「活動が軌道に乗ってきたのではないかと」の評価をいただいた。ただ、「収益としても自立できるワンランク上の営業をした方がいいのでは」という意見もある。「これからもずっと続けていってほしい」という声があったのは嬉しいことだと感じている。いつも協力してくださる方々に感謝しつつ、今後もより良い活動を続けていきたい。

<今後の課題・展望>

現在、活動を続けていく上で人手不足が大きな問題となってきた。情報発信の成果によりカフェへの来店者が増え、運営日を増やせないかとの声もあるが、現状ではこれ以上一人一人の負担を増やすことは難しい。より多くの学生や地域の方の協力を得て、より良い活動の継続の方法を検討していく必要がある。



大洗応援隊学生メンバー集合写真